

平成 30 年度 学校評価報告書 (目標設定、実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加を目指し、児童・生徒の実態を的確に把握し、入院中の学習保障をすると共に、柔軟かつ多様な充実した教育活動を実践する。 ・ICT機器等の有効活用による環境整備を推進し、多様な授業の実践研究を推進する。 	<p>①新学習指導要領改訂の趣旨を理解し、完全実施へ向け、移行期間に必要な取組を着実に遂行する。</p> <p>②全ての教員がICT機器等を活用した指導の意義を理解し、児童・生徒の学びが充実するよう工夫して取り組む。</p>	<p>①新学習指導要領について学び合う機会を設定する。移行措置を踏まえて指導内容の適切な精選及び連続性に配慮した指導を行う。</p> <p>②ICT機器等を活用するための環境をさらに整備しながら、全ての教員がICT機器等を活用した多様なつながり授業を実施することで、その指導が児童・生徒の学びにどう結びついたのかを検証する。</p>	<p>①移行期間中の教育課程の編成・実施に当たっての留意事項を踏まえた指導ができたか。</p> <p>②全ての教員がICT機器等によるつながり授業を実践し、実践記録等からその有効性を検証し、教員間で共有することができたか。</p>					
2 児童・生徒 指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒一人ひとりの個性や医療状況を尊重し、ニーズに応じた支援・指導を組織的に行う。 	<p>①支援シートや個別教育計画が児童・生徒の支援・指導につながるツールとなるよう改善を進める。</p> <p>②教育相談や転入学相談の流れを明確にし、分かりやすく校内や保護者、病院に周知して共通理解を図る。</p>	<p>①短期入院が増える中、短期間でも実態把握から指導につながることのできる個別教育計画の様式や、支援シートの記載事項について検討し、活用する。</p> <p>②組織的に支援・指導するため、教育相談先の明示や、転入学相談の進め方、前籍校との手続きを明確化し、各種会議やホームページで示すなど、周知の方法を検討する。</p>	<p>①一人ひとりの教育的ニーズに応じた個別教育計画の様式が作成できたか。支援シートが支援・指導をつなぐためのツールとして活用できたか。</p> <p>②相談の流れを明確化することで、スムーズな手続きができたか。また、課題解決につながった事例や、よりよい指導に結びついた事例は増えたか。</p>					
3 進路指導・ 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの将来の生活の充実を目指し、医療状況や復学時期への見通しに応じた進路指導・復学支援等を行う。 	<p>①児童・生徒の将来の生活を見据え、学校教育全体でキャリア教育の向上・充実を図る。</p> <p>②進路指導や復学支援等によって、児童・生徒が安心してその後の生活に移行できるよう、適時適切な支援・指導を行う。</p>	<p>①キャリア教育の視点から教育課程や授業実践を学校全体で再検討し、実践事例を積み上げる。</p> <p>②復学支援等は、保護者や病院内外の関係者と連携して進める。また、ICT機器等を活用した復学後や卒後の支援を継続的に行う。</p>	<p>①キャリア教育の視点を踏まえたカリキュラムマネジメントの実現と、校内で共有できる実践事例の蓄積ができたか。</p> <p>②個人情報の取扱いに十分注意して遂行できたか。ICT機器等を活用した復学後や卒後の支援ができたか。</p>					

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 地域の小中学校へのコンサルテーションを実施し、さらに地域の特別支援学校へ支援をつなぐ。 病弱教育に関する理解や啓発を進めるため、地域の小中学校や特別支援学校へ発信する。 	<p>①地域に暮らす病気の児童・生徒を支援する。</p> <p>②病弱教育について理解が広がるように、情報発信の方法や内容を精選する。</p>	<p>①小中学校の教職員が、病気の児童・生徒の心情や病気との寄り添い方を理解することで、校内のさまざまな疾患の児童・生徒に対する理解を深められるよう機会を設ける。</p> <p>②本校に期待される役割や、どのような情報が求められているのかをニーズ調査等によりデータ収集し、その結果を反映して学校便りやホームページを充実させる。</p>	<p>①小中学校の教職員向けに病弱教育の意義を伝える機会を設けることができたか。また、理解周知は進んだか。</p> <p>②受け手のニーズを把握して、それにあった情報発信ができたか。</p>					
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の人格的資質、専門性の向上を図る。 限られた利用可能施設や、制約が多い環境の整備と最大限の活用を図る。 事故、不祥事防止を徹底する。 	<p>①教職員は、校内の教職員同士及び病院職員とコミュニケーションを図り、教育の専門家として連携できるよう常に学び続ける姿勢をもつ。</p> <p>②同僚性を発揮し、お互い目をかけ、気をかけ、声をかけながら事故、不祥事のない職場を作る。</p>	<p>①日々、他職種連携が求められる本校において、挨拶、連絡、報告を行いながら、他職種と互いの専門性を尊重し合えるように自己研鑽に努め、病弱教育の専門性や授業力を向上させる。</p> <p>②事故、不祥事防止を徹底するために、全員参加で月1回の学び合いの機会を設ける。</p>	<p>①挨拶、連絡、報告が適時適切にできたか。専門性向上のために研修や研究をするなど、自己研鑽に努めたか。</p> <p>②当事者意識をもって学び合える内容で実施することができたか。</p>					